

活用場面

CI

相手の興味や理解に応じて発話を工夫し、より分かりやすく伝える力を身に付ける授業

活用したソフトや機能：学習支援ツール、地理空間情報アプリ

学年：小学校第6学年 教科：外国語
単元名：Unit 3 Let's go to Italy.

○ 本時について(7/8)



(1)ねらい

・旅行代理店の店員として、自分がおすすめる国について、相手に「行きたい」と思わせるために、相手を話に巻き込んだり、国の魅力やそこでできることを付け加えたりしながら、分かりやすく話すことができる。

(2)評価規準

・自分がおすすめる国の魅力を伝えるために、相手を話に巻き込んだり、その国のできることを付け加えたりしながら、分かりやすく話している。【思考・判断・表現】

(3)学習展開

過程	学習活動	ICT活用場面
導入	1 課題 相手に「行きたい!」と思わせるように、おすすめる国の紹介をしよう。	
展開	2 活動① ・自分がおすすめる国について伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ツールのカードに貼りつけた、国の魅力を伝える写真を見せながらプレゼンをする。 ・相手の興味に応じて、別のカードの写真を見せ、相手に合わせて話を進めていく。 ・相手がその国の位置を知らない場合には、地理空間情報アプリを利用して説明する。 ・アンケート機能を使って、行きたい国を投票する。国名は英語で記載し、目的をもって読む活動につなげる。
	3 中間交流① ・相手に行きたいと思わせるためには、相手の興味に応じることが大切であることに気付く。	
	4 活動② ・相手の興味に応じた話題を選びながら伝え合う。	
	5 中間交流② ・相手が知らないことについては、説明を加えることの必要性に気付く。	
終末	6 活動③ Welcome to Italy. You can eat delicious foods in Italy. Do you like pizza? Look! This is a special topping...	
	7 本時の活動を通して、一番行きたくなった国を選ぶ。	
	8 振り返り	

活用の際のワンポイント!

- 国の魅力を伝える様々な写真や、国の位置をすぐに説明できるソフトを準備しておくことで、Do you like ○○?、Do you know ○○?と相手の好みや理解を確かめながら、相手に応じて発話を工夫することにつながります。
- 本時の言語活動を通して、どの国に行きたくなったかをアンケート機能を用いて確かめることで、充実感や次時への意欲をもつことにつながります。